

ほっとネット

Contents

P1 巻頭言

新年のごあいさつ
院長 安藤 利昭

P1 新任医師紹介

P2 診療科発

眼科って??
眼科 科長 神原 啓輔

P3 部門紹介

臨床工学室
臨床工学室 技士長 角 暢征

P3 保健管理部 衛生試験室

保健管理部 副薬剤長 大房 正知

P4 特集

つるつる路面で転ばない体づくりと歩き方
リハビリ室 技士長 夏目 健文

P4 『早期からの緩和ケアを、知っていますか?』

P5 認定看護師の紹介

P6 地域発

医療法人社団 太黒胃腸内科病院
副院長 山本 純司先生

新そらちゃん&はなちゃんシリーズ
“福島県会津に「ころり三観音」巡拝の旅に出る”

JR札幌病院 間違い探しゲーム

ほっとネット44号当選者発表



10月28日 ブラックジャックセミナー

JR札幌病院 基本理念

心の通う医療
信頼される医療
地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



H29.10.6 日本医療機能評価機構より
3rdG : Ver.1.1の認定を受けました。



巻頭言 新年のごあいさつ

皆様、明けましておめでとうございます。

新しい年をどのように迎えられたでしょうか。

昨年は政治・経済において信じられないような状況が現実化し、一方社会では非常に痛ましい事件・事故や大きな災害が多かった年だったように思います。今年は安心して希望の持てる年となることを願っております。

さて、当院では昨年、医療機能評価機構(JCQHC)の更新を受審し、再認定を受けております。初回もそうでしたが、やはり第三者に評価いただくことは身の引き締まる思いと共に自己満足や、限界と感じていることを打破しなければならないという動機づけに非常に意義のあることと再認識しました。幸いとくに問題は指摘されませんでした。が、より良い病院を目指すためにいくつかの目標を得たと感じております。今後も、受診される皆様や連携して頂いている医療機関の諸先生にも更に一層高く評価される病院機能を構築するため継続的に取り組んで参りたいと思っております。

当院では今年MRIの更新に伴い1.5テスラから3.0テスラへとより高度な機器を導入することとしました。1月から3月までの間交換工事のためMRIが使用できず皆様にはご不便をおかけしますが何卒ご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。尚、工事期間内は必要時に、他施設と連携しMRI検査が受けられるように配慮致したいと存じます。

今年は診療報酬改定の年に当たります。現在の状況では医療を受ける側、提供する側いずれにとりましてもあまり良い情報が聞かれませんが、私共医療の一端を担う立場



院長 安藤 利昭

として提供すべき医療の本質は変わらないという考えのもと、より一層良質な医療の提供に努めて参りたいと考えております。

本年が皆様にとりましてより明るく、より健康に過ごせる年となりますことを祈念申し上げます。



新任医師紹介

- ①略歴 ②専門分野 ③趣味 ④一言



にしざわ けいたろう
腎臓内科 西沢 慶太郎

- ①平成22年札幌医大卒、同循環器・腎臓・代謝内分泌内科講座入局。札幌医科大学付属病院、道立江差病院、函館五稜郭病院を経て、平成29年10月より当院勤務。
- ②腎臓内科、循環器内科、内科一般
- ③漫画、アンチエイジング
- ④自分の家族に提供したいと思える医療を心掛けます。どうぞよろしくお願いたします。



ふじもと かおり
眼科 藤本 香

- ①平成24年札幌医大卒、JR札幌病院と札幌医大で初期研修を行い、平成26年札幌医大眼科入局。札幌医大、札幌東徳洲会病院勤務を経て平成29年11月より当院勤務
- ②眼科
- ③旅行、音楽
- ④研修医時代は御指導いただき誠にありがとうございました。これからは患者様の力になれるよう、誠心誠意励みます。どうぞよろしくお願いたします。

診療科発

眼科って??

眼科が扱う疾患は一般的には白内障・緑内障・網膜硝子体・ぶどう膜炎・斜視弱視・神経腫瘍・角膜・外眼部と大きく分けると上記に分類されます。

私は札幌医科大学附属病院で働いていた時は網膜硝子体のスタッフとして勤務しておりました。網膜硝子体は糖尿病性網膜症や網膜剥離、網膜前膜、黄斑円孔、加齢黄斑変性症などの疾患を検査・診断・治療します。網膜剥離や網膜前膜、黄斑円孔は全身麻酔下での1~2時間程度の硝子体手術や網膜復位術を行い、糖尿病性網膜症は予防目的のレーザー治療、加齢黄斑変性症は抗VEGF硝子体内注射などを行って治療しております。硝子体手術や網膜復位術は今後当院でも積極的におこなっていく方針です。

当院の眼科ではぶどう膜炎の患者が多く、特にサルコイドーシスの患者が呼吸器内科と連携して他の施設よりも多く感じます。サルコイドーシスから発症するぶどう膜炎は一般的には慢性型となることが多くステロイド点眼を適切に使用することで重症化することは稀ですが、再発を繰り返す患者が多く定期検査が必要となります。

また当院はJR職員の職域病院の一面もあり職員採用に際に必要となる色覚検査で診断をつけることができる道内でも限られた病院です。アノマロスコープという確定診断できる機械が

ありますので色覚異常疑いの患者がいれば御紹介いただければと存じます。

外眼部の領域というとどんな疾患を想像するでしょうか。基本的な疾患でいうと眼瞼下垂や眼瞼内反症、流涙症をきたす鼻涙管閉塞症、細菌感染や炎症による麦粒腫(ものもらい)や霰粒腫があります。最近では眼瞼下垂に関して眼科ではなく形成外科で手術している施設が多いようですが、当院では上記の疾患も積極的に手術して患者さんが鏡を見て満足できるように、また自覚症状の改善に努力する所存です。

眼科専門医として眼科が扱う全ての疾患にできる限り当院で検査・診断・治療と完結することを目標に日々努力いたします。

眼科の領域でお困りの方はどんな小さなことでも是非外来受診していただければ助かります。

また平成29年11月から眼科医師は私を含め2人体制になりました。

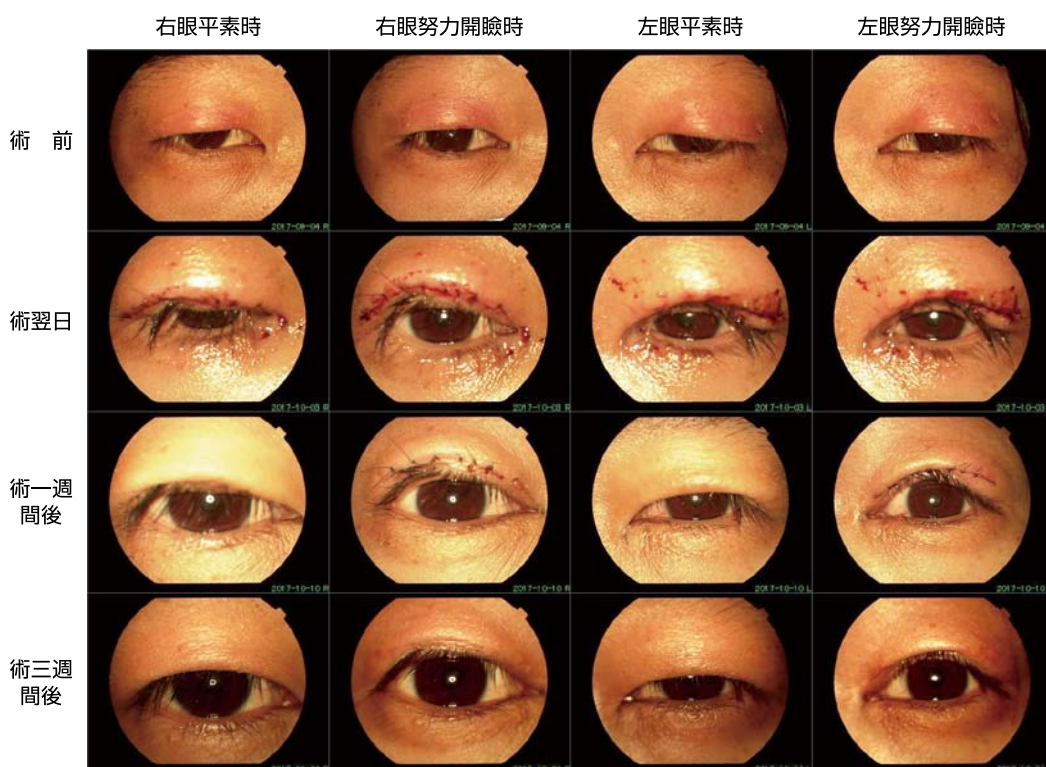
当科では診療体制を強化して手術や外来での業務を増やしていけるようにしていく所存です。

他科の先生方にはコンサルトして頂き、誠にありがとうございます。

近隣の開業医の先生方を含め、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

眼科
科長

神原 啓輔



眼瞼下垂の手術前後の写真(31歳 男性)
※患者様の御了解を得て掲載させて頂いております。

部門紹介

臨床工学室

当院、臨床工学室は透析業務、医療機器点検業務、手術室業務、カテ室業務、ペースメーカー業務、仙骨刺激装置外来業務などを男性6人、女性1人の合計7人でを行っています。

透析業務は、透析機器の点検、水質チェックからはじまり、週3回透析をしている患者さんの回路、ダイアラアイザーのプライミング、患者さんの血圧、体温などを測定、患者さんの腕に穿刺も行います。

他の病院と比べると臨床工学技士のみが穿刺するのは珍しいかもしれません。

医療機器点検業務は輸液、シリンジポンプ、人工呼吸器、患者監視装置、AED、除細動装置などの日常点検、定期点検を行っています。

又、医療安全推進室と協力して年2回医療機器の講習会を臨床工学技士が行い、医療機器が安全に使用出来るようにサポートしてい

臨床工学室
技士長

角 暢征

ます。

手術室業務は主に腹腔鏡下の手術に入っており、外科、泌尿器科、婦人科、整形外科、眼科と幅広く関わるが多いです。

カテ業務は心カテ、下肢PTA時のIVUS、OFDIなどを操作やカテに必要な物品を出したり、緊急時はIABP、PCPSなど補助循環の操作を行ったり、カテの会計伝票まで管理しています。

又、ペースメーカー業務では患者への医療機器登録制度の説明を行い、埋め込み時は物品から自脈測定、閾値測定を行っています。外来業務では年2回ペースメーカー外来のチェックを行い、埋め込みから外来チェックまで臨床工学技士が関わっています。

仙骨刺激装置業務もペースメーカー業務と同様に外科での埋め込みから外来時のチェックまで臨床工学技士が関わっています。

たくさんの業務があり他部門、他科のドクター、看護師と関わるが多いため専門知識を磨きながら日々努力し医療スタッフ(コメディカル、ドクター)に信頼される臨床工学技士を目指しています。

又、医療に不可欠な医療機器の安全確保と効率的に機器を使用できるように貢献していきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

保健管理部 衛生試験室

当院にはJR北海道社員の健康をサポートする保健管理部門があります。その中に衛生試験室があり、3名の薬剤師が働いています。具体的な仕事の柱は3本あります。

- ①作業環境測定(仕事をしている環境の有害物質を数値化し、より良い環境を維持するための測定。)
- ②衛生検査(病院の入院給食や外来食堂の調理場、さらには社員寮の調理場の検査。)
- ③水質検査(新幹線、特急列車に搭載している飲用水の検査。病院から出される排水の検査)

この中でとりわけ大きな比重を占めるのが①の作業環境測定です。JR北海道の工場、列車を整備する車庫、列車の走るトンネルは全道にあるため南は函館、北は稚内、東は釧路、網走まで出かけています。

全員が「作業環境測定士」という資格を取り測定にあたっています。

様々な化学物質による労働災害や障害が起きていることをニュースや新聞で知ることがあると思います。古くはベンゼンのりや石綿による障害。最近では印刷工場で使用した洗浄剤に含まれていた有機溶剤による膀胱がんの発生などがあげられます。

そのため「労働安全衛生法」という法律では労働者の「安全」と「衛生」という点から様々なこと

が決められています。その中でも粉じん、有機溶剤、特定化学物質などの有害物質を扱う作業場においては6か月以内毎に測定をし、数値化してより良い作業環境へ改善することが義務付けられています。

また病院も例外ではなく、いろいろな有害物を使った業務があります。エチレンオキシド(器具の滅菌に使用)、ホルムアルデヒド(ホルマリン。組織の病理検査で使用)、クロロホルム(病理検査、歯科で使用)は発がん性を有しているため、ここ10数年で法規制の対象となり作業環境測定をし、必要であれば作業環境を改善しなければなりません。

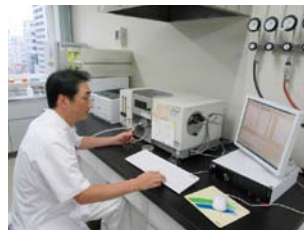
普段は患者様にお会いする機会がほとんどない私たちですが、JR札幌病院にはこのように病院職員のみならず社員が健康で元気に働くための、縁の下の力持ち的な部門があるのです。

保健管理部
副薬剤長

大房 正知



ガスクロマトグラフィによる有機溶剤分析



原子吸光分析器による金属分析



位相差顕微鏡による繊維状物質の分析

特集

つるつる路面で転ばない
体づくりと歩き方

冬になると転倒してケガをし受診する患者様が増えます。救急搬送者の年次推移をみると、スパイクタイヤ禁止前後の年から、転倒による救急搬送患者数が急増しています。スパイクタイヤの禁止と転倒事故の急増の関係の科学的根拠は明らかではありませんが、車が雪氷路面を走行すると、その表面が車両からの熱で融け、滑りやすいつるつる路面に変化することは知られています。そこで、つるつる路面でころばない、体づくりと歩きかたを紹介します。

1. ダイナミックフラミンゴ療法(図1)

転倒予防の運動として、阪本桂造(西蒲田整形外科院長)が考案されたのが、開眼片足立ち訓練(ダイナミックフラミンゴ療法)で

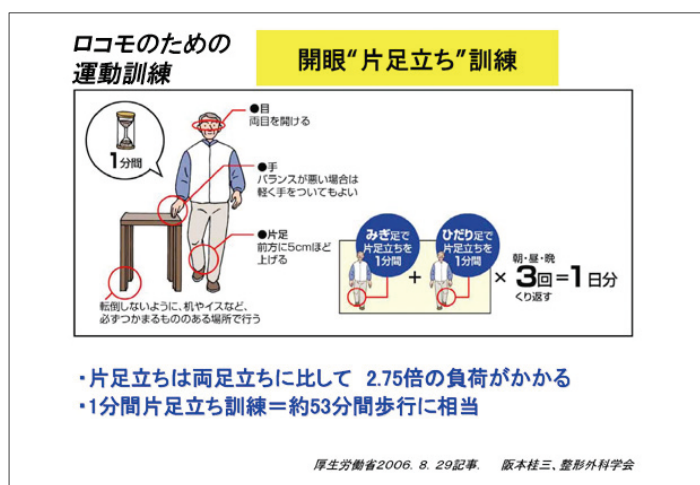
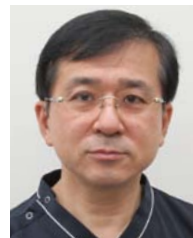


図1

リハビリ室
技士長
夏目 健文

す。骨盤周囲筋の筋力増強と立位バランスの改善を得て転倒予防に役立てようとする一石二鳥を期待する運動(療法)です。方法は、右足立ちで1分間+左足立ちで1分間。朝昼晩、1日3回。これを繰り返してください。(片脚づつ交互に行う。)ご高齢の方は机や平行棒につかまりながら行ってください。

2. バードドクトレーニング(写真1)

体幹を鍛えるトレーニングを代表するエクササイズの一つです。四つん這いの状態から手と対側の足を上げ、その状態をキープします。バランスを保とうとして体幹が鍛えられますので、体幹を意識しつつ姿勢を保つことが重要です。3秒静止したら手と足を戻し、反対を上げ3秒静止します。これを1セットとして3セット行います。

3. つるつる路面は、ペンギン歩き(写真2)

ペンギンは身体の重心を地面と垂直に保ちながら、短い歩幅で歩いていると言われています。(1)小さな歩幅(2)足の裏全体をつけて歩く「すり足」のような歩き方を意識すると滑りにくくなります。



写真1



写真2

『早期からの緩和ケアを、知っていますか?』

緩和ケア医師 副院長・麻酔科医 清水 齋
緩和ケア室 緩和ケア認定看護師 佐藤 奈緒美
診療情報管理室 診療情報管理士 庄武 美加子

平成29年10月から緩和ケア医師、緩和ケア認定看護師が、緩和ケア内科外来を開設しました。毎週月曜日、午後から予約制となっています。

現在、がんは身近な病気であり、3人に1人ががんに罹患するといわれ、がん治療の発達により、がんと共存する時代になっています。

緩和ケアについて「自分は抗がん剤治療をしているから、関係がない」と耳にしますが、患者さんとその家族は、診断を受けたことによる衝撃、手術・治療による苦痛、家族や医療者とのコミュニケーションなど、様々なつらさが短期間に降りかかります。

「早期からの緩和ケア」とは、がん(病気)と診断されてから3か月以内、または、抗がん剤治療中から、積極的治療(手術・放射線・化学療法)と緩和ケアを併行して診療することです。

早期からの緩和ケアの提供により、がん(病気)と共存しながら日常生活を自分らしく過ごしたいという希望を支えるため、医療者も伴走者になって様々な支援をしています。

緩和ケアを早期に受けることで、痛み、吐き気、呼吸困難、倦怠感など、様々な体のつらさをコントロールするだけでなく、症状に伴う気持ちのつらさを吐露することで、自分の持てる力を高めることができ、家族とも深い話し合いができる方もいます。

つらくなる前に、一人で悩まず、大切な生活を送るための伴走者として『緩和ケア内科外来』をお役立てください。ご希望の方は、代表電話(011-208-7150)から直接、もしくは、院内の看護師に「緩和ケアを受けたい」と申し出てください。緩和ケア室 佐藤がご相談内容をうかがい、緩和ケア医師に連絡をして面談を一緒に行います。

認定看護師の紹介

当院には、6名の認定看護師がいますので、ご紹介させていただきます

皮膚・排泄ケア認定看護師

原田 朱美

2017年に資格を取得し、当院2人目の皮膚・排泄ケア認定看護師として活動を始めました。

術前・術後のストーマ(人工肛門)ケアを中心として活動を行っております。ストーマケアの自己管理に向けた手技確立と日常生活の問題について考え、少しでも困難なく生活していただけるようにケアを行っていきたくと思っています。また、皮膚をより健康に保つための専門的な知識・技術を提供できるよう取り組んでいきたくと思っています。

中央手術室 手術看護認定看護師

原 義和

2016年6月に手術看護認定看護師の認定を受けてから、今年で2年目になります。普段は手術室で勤務していますが、周術期看護に関する勉強会の開催や学会活動など、院内院外を問わず、周術期看護の質の向上を目指して活動しています。

手術を受ける患者様のことやお困りのことや勉強会の要望など、常時相談に応じていますので、声をかけてください。

皆様とともに当院の周術期管理におけるチーム医療を推進していきたくと思っています。よろしくお願い致します。

がん化学療法看護認定看護師

八重樫 千香

2008年に「がん化学療法看護認定看護師」の資格を取得し、院内外で活動を行っています。

院内活動として、看護師を対象とした、血管外漏出や抗がん剤の曝露対策、各部署の希望に即した勉強会の実施、CVポート穿刺の講義を行っています。

院外活動では、北海道の他施設のがん化学療法看護認定看護師と協働し、北海道の看護師を対象に講演会を開催しています。その他に学会での看護研究発表、看護学校の講義を行っています。

これからも、患者さんが安心・安全に抗がん剤治療を受けることができ、かつ、医療従事者が安全に抗がん剤治療を実施できるように活動を続けていきたくと思っています。

皮膚・排泄ケア認定看護師

奥村 紀美恵

創傷ケア・ストーマケア・失禁ケアを行う認定看護師です。

創傷ケアは、褥瘡等の創傷が早期治癒促進に導けるようケアを行っています。ストーマケアは、造設後から一生にわたってサポートするストーマ外来(看護外来)で指導を行っています。失禁ケアは、尿・便失禁の対応やスキンケアを中心にケア・指導を行っています。

患者さんの満足のいく療養生活環境が提案でき、ケアの継続ができるように努めていきます。

緩和ケア認定看護師

佐藤 奈緒美

平成16年7月から緩和ケア認定看護師を取得し、緩和ケア専従看護師となり、早期からの緩和ケアを院内・院外に啓蒙活動しています。

早期からの緩和ケアとは、病気の予防・診断から人生の最終段階における時期・残された家族に対してつらさを和らげる医療のことです。

がん相談の面談や緩和ケアチーム依頼を受け、患者さんと家族の伴走者になるため、活動しています。気がかりがありましたら、ご相談をお待ちしています。

感染管理認定看護師

櫻田 玲子

感染管理認定看護師として院内の感染の発生抑制と感染拡大防止のための感染管理の活動を行っています。その活動の一つとして、院内のあらゆる部署を巡回し、感染対策への取り組みを確認し、助言や指導を行っています。また職員から感染対策に関する相談を受け感染防止に努めています。

感染管理の活動は、一人ではできることが限られ、職員全員で取り組むことが大切です。私は、職員全員と一緒に患者さんや来院者、職員が感染から守られ安全でより良い環境になることを目指し活動していきます



左から 原田、原、八重樫、奥村、佐藤、櫻田

地域発

医療法人社団 太黒胃腸内科病院

副院長 山本 純司先生



太黒胃腸内科病院はJR札幌駅北口から北方向に徒歩7分、地下鉄北12条駅からはJR札幌駅方向に徒歩1分に位置します。ベッド数は大部屋30床、個室30床、計60床の消化器専門病院です。

当院は昭和9年12月、現地に診療所として初代院長の太黒薫先生が創立した、市内でも歴史のある病院です。昭和30年に太黒病院に名称変更し、昭和46年からは胃腸科病院として胃・腸のバリウム検査、内視鏡検査、超音波検査に注力してきました。平成9年より現院長を務める今井 希一先生をはじめ、常勤医5名のうち3名が日本消化器内視鏡学会指導医の資格を有しており、同学会の指導施設としても認定されているほか、日本消化管学会より胃腸科指導施設の認定も受けています。

平成22年には現病院を新築し(写真1)、外来スペースの拡張(写真2)、車椅子対応トイレの設置、個室ベッドの大幅な増設や内視鏡機器の更新(写真3)を行いました。この整備により「多くの人々の心身の拠り所となり、安心して安全な医療を受けられる環境を整

え地域医療に貢献する」ことが病院の基本構想としてまとめられ、全職員が一丸となって日夜これに取り組んでいます。

当院で行われている検査は、上部内視鏡(胃カメラ)、下部内視鏡(大腸カメラ)、そして超音波検査(エコー)や採血検査が中心です。疾患が疑われた場合にはCT検査、造影エコー検査、消化管バリウム造影検査、胆膵内視鏡検査などを行います。診断が確定した後は、一般的な内科治療(点滴など)のほか、胃や食道の内視鏡手術(粘膜下層剥離術)、大腸内視鏡手術(粘膜切除術)、胆膵内視鏡手術を行うこともあります。内視鏡治療の適応外と診断された疾患については、JR札幌病院や北大病院をはじめとする近隣の外科病院に紹介を行っています。

さて、消化器領域の疾患はこの30年で大きく様変わりしております。かつて国民病でもあった胃潰瘍は、入院して何ヶ月もかけて治療していたものが、優れた潰瘍治療薬の出現により外来での内服治療にて治療できる病気になりました。さらにヘリコバクター・ピロリ菌の発見と除菌治療の保険収載によって胃潰瘍患者は大幅に減少し、更には胃癌発症者の減少までが期待できる情勢となりました。一方で、高齢化に伴い癌患者数は増加しておりますが、なかでも増加しているのが大腸癌です。大腸癌患者を減少させるには前癌病変(大腸ポリープ)の適切な切除や、大腸癌検診の受診者数増加が必要と見込まれております。

消化器癌のほとんどは早期に発見できれば内視鏡手術や低侵襲手術で根治が可能です。胃腸の不調を感じた時、がん検診で異常を指摘された時など、ぜひ当院にご相談ください。



写真1



写真2



写真3

医療法人社団 太黒胃腸内科病院

〒001-0011 札幌市北区北11条西3丁目1-15

TEL:011-716-9161 FAX:011-758-5015

理事長・院長 今井 希一

診療科 胃腸内科・内科

許可病床 60床



新そらちゃん&はなちゃんシリーズ “福島県会津に「ころり三観音」巡拝の旅に出る”



そらちゃん

はなちゃん

はなちゃん 「会津は幕末時代が有名だが、実は昔は仏教文化が栄えた、一大聖地だったのって知っているかい？」

そらちゃん 「会津のソース煮込みカツどん、なまらうまいでないかい」

はなちゃん 「聞いている？今日は会津ころり三観音巡りだよ！人は生まれてから三毒、貪(むさぼること)、瞋(いかること)、痴(おろかなこと)により苦悩を受けるが、中田観音・立木観音・鳥追観音の三観音を巡拝することで、その苦しみが除かれ、大往生を遂げられるよ。観音堂内にある抱きつき柱にすがれば、死の床に際しても苦しまずにころりと成仏でき、家族に余計な負担をかけずにすむというんだ」

そらちゃん 「会津葵の船入りカステラは「かすてあん会津葵」は絶品だね、パクパク」

はなちゃん 「中田観音(普門山弘安寺)は、野口英世の母シカさんが熱心に信仰していたし、また安産の守護観音としても有名だよ、堂内の十一面世観音菩薩、不動明王・地藏菩薩立像。三体ともに国の指定重要文化財となっているよ。立木観音(金塔山恵隆寺)の御本尊「十一面千手観音菩薩」は身長8.5mもあり、左右の脇侍には、二十八部衆・風神・雷神、30体、弘法大師空海の作とも伝えられている。鳥追観音(金剛山如法寺)の御堂の彫刻に

は左助五郎作の「隠れ三猿」は見事で、三体全て見つけた者には幸運が訪れるという。」

そらちゃん 「2つしかわからないよ～、やっぱり邪心があるとだめだね、分かる？」

はなちゃん 「住職のおかみさんが面白い人で、僕に教えてくれたんだ、1.鷹に襲われる猿(難より隠れサル)、2.鷹が猿を見失い難を逃れた猿(難を逃れサル) 3.手枕で丸くなって眠る猿(安楽に暮らしサル)この3匹だよ」

そらちゃん 「早く、大内宿へ行って、かやぶき屋根の蕎麦屋さんで、ネギそばを食べようよ、ネギ一本でそばを食べるんで有名だよ、きんつば、そばがき団子、イワナサンド、饅頭のてんぶら、山葡萄アイス…食べよう食べよう」



クイズに答えて
景品を当てよう!

JR札幌病院 間違い探しゲーム

2つの写真から、5つの間違いを探そう！
正解者には、抽選で図書券がもらえるヨ
息抜き、暇つぶし、頭の体操にやってみよう～



応募要項

応募期間：平成30年2月1日～2月28日

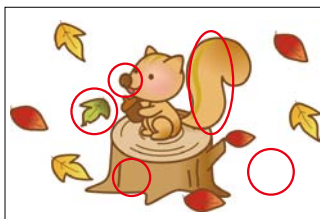
応募方法：応募用紙の写真の間違い箇所に入力し、地域医療連携センター前に設置の応募箱へご投函、又は、紙面上の写真を切り取って(コピーも可)〇を記入し、住所・氏名を記載の上郵送でご応募ください。

応募先：〒060-0033 札幌市中央区北3条東1丁目 JR札幌病院 地域医療連携センター ※氏名の公表を希望されない場合はペンネームを掲載いたします。

発表方法：広報誌「ほっとネット」紙面上にて発表いたします。

ほっとネット44号当選者発表

5つのまちがいは



応募総数 27人

抽選の結果、次の5名の方にクオカードをお送りいたします。

井上 美紀 様、こはくmom 様、近藤 喜久雄 様
中村 巳代 様、藤野 千尋 様

編集後記

冬になりすっかり日が短くなってしまいました。仕事が終わって家に帰るときはすでに真っ暗だったりします。歩きながら空を見上げると夜空にはきれいな星空が、冬は天気が良いと星が良く見えますよね。小学校で習った北斗七星やカシオペア座なんかを見つけるとちょっとうれしくなります。でも、家で帰りを待っていて点けてくれている“地上の星”が一番ほっとします。(しおひと)

発行日/2018年1月31日

編集長/伴 紀宏

編集者/大村 早代・小野 雅子・川村 千晶・河野 通晴・中村あゆみ
夏目 健文・松本 道明・若狭 千恵・渡邊由美子

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<http://www.jrsapporohosp.com>